



激動の2011年を振り返って

総務省 総務審議官 やまかわ 山川 てつお 鉄郎



1. はじめに

皆様こんばんは。御紹介いただきました山川でございます。この年一番最後のITUクラブにお招きいただきどうもありがとうございました。今日は最近の国際の話題ということでお話をさせていただきたいと思っております。実は、先ほどこタイトルを見たら、「激動の一年を振り返って」と書いてあるんですが、実はほとんどここ1か月の話しか書いてありません。でも、そこそこ最近の国際の動きが分かっていたかなというふうに思います。

2. APT事務局長選挙について

APTアジア電気通信共同体の事務局長選挙が11月17日、韓国の済州島で行われました。日本からの立候補者、山田事務局長が再選になりました。大変お世話になり、ありがとうございました。対立候補は、韓国の候補でウィ・キュジン候補だったんですが、正に韓国のホームグラウンドである済州島で行われるということで、かなり厳しい選挙戦になるだろうと思っておりました。実際かなり厳しかったです。議事の順序を巡って争いがあったり、なぜかお土産の中に韓国の候補のパンフレットだけが入っていたり、公式プログラムに韓国の候補だけが載っているとか、非常に厳しい状況の中で戦いになりました。しかし結果28票対8票ということで、ほぼ3/4の票を取り圧勝致しました。皆様方にいろいろ御協力をいただき、大変ありがとうございました。

これは日本の自力が評価された結果かな、というふうに思います。今回は日本と韓国、完全にガチンコだったんですけども、これまでの皆様方のアジア太平洋諸国に対して様々な御協力をいただいた遺産で何とか勝てたかな～というふうに思います。各国とも日韓どっちがいいかかなり迷っていました。票差よりも実際は僅差だったと思っております。

3. ASEANへのアプローチ

日・ASEAN首脳会議がその次の日、11月18日に、バリ／インドネシアでございました。ここでは野田総理がASEANの

全域に対するソフトインフラ案件への協力を表明しております。総務省案件としてはASEANのスマートネットワークの構築、それからASEAN防災ネットワーク構築構想、この二つの構想が今後ASEANと日本との間で協力をしていく案件ということで位置付けられております。今のブロードバンド整備の世界的な盛り上がりというのは、日本より10年とか15年とかちょっと遅れているかな？という感じです。ただ、非常に各国とも機運が盛り上がっておりまして、最先端のネットワークを張っていききたいというニーズは非常に強いものがございます。日本としてもここは一生懸命やっていきたいと思っております。

12月9日、日・ASEAN情報通信大臣会合がミャンマーのネーピードー（2006年から作られた新首都）で行われました。そこでASEANのスマートネットワーク構想が正式に承認され、プロジェクトとしてスタートしております。これは松崎副大臣に行っていました。テインセイン大統領と後ろにいますのがティントウン大臣です。実は日本の閣僚、野田総理と玄葉外務大臣はインドネシアで大統領に会っているんですけども、ミャンマー国内で大統領に会った閣僚は、ここ20～30年ほとんど記録がないので久しぶりの大統領への謁見ということになります。今ミャンマーはクリントン長官が行かれてから盛り上がっています。この情報通信大臣会合でしっかりと中身を固めにかかっているということがございます。ASEANは今後資金需要も重要になってきますので、いろいろ協力しながらこういったインフラを張っていききたいと思っております。他方、インドネシアには、このスマートネットワーク構想とか防災のネットワークで既に一部の会社さんには御協力をお願いして、人を出していただいております。防災ネットワークを張るために、既に15か国くらいがASEAN



写真1. 松崎副大臣とテインセイン大統領、ティントウン大臣



の協力をしたいという申し出があり、かなり厳しい競争が予想される世界にもなっておりまして。もちろん、我々としては全力で、日本陣営として取りに行くという固い決意で臨んでおります。

4. 2012年のインターネット

12月に、オランダでインターネットの自由に関する閣僚会合がございました。2011年はインターネットに関する国際会議が、非常に盛り上がりを見せております。4月にアメリカと欧州でICTサービスの通商原則合意、5月にパリでe-G8会合、引き続きドーヴィルのG8のサミットの首脳宣言ではインターネットで1時間時間を割きました。その後、インターネット経済に関する日米政策協力、OECDの大臣レベル会合、ナイロビで高級閣僚フォーラム、フランス政府主催の大臣会合NEW WORLD2.0がパリ、国際サイバー会議がロンドン、グローバルフォーラム2011がブリュッセル、それからオランダ、今は日米ICTサービス通商原則の交渉中でございます。このようにインターネットに関する議論というのが非常に盛り上がっております。

世界経済フォーラム、サマーダボスのメインテーマはEUと米国の危機に中国がどう対応するかというものでした。インターネットに対して各国がどう対応していくのかということも非常に大きなテーマでした。本当は2セッションしか出してもらえない予定だったんですけども、大連に行ってみたら7セッション出てくれということで、多分日本人のセッション参加最多記録を作ったのではないかと考えております。科学技術大臣会合も全部出てきました。ただ、そこで出た内容は、科学技術から始まったんですけども、中身はやはりインターネットの自由の原則をどういうふうに関後対応していくかということで、議論はアメリカとインド、ブラジル、中国との間でかなり厳しい議論が行われておりました。どういうこと

4月	米欧ICTサービス通商原則合意
5月	e-G8会合(パリ) G8サミット首脳宣言(ドーヴィル)
6月	インターネット経済に関する日米政策協力原則合意 OECD/ハイレベル会合(インターネット経済政策策定原則)
9月	高級閣僚フォーラム(ナイロビ)
10月	NEWWORLD2.0閣僚会合(パリ)
11月	国際サイバー会議(ロンドン) グローバルフォーラム2011(ブリュッセル)
12月	インターネットの自由に関する閣僚会合(オランダ) 日米ICTサービス通商原則(交渉中)

図1. インターネットに関する国際会議の動向

かということ、グローバルな公共政策を調整する国連機関の設置というのを主張しているのが、インドや中国です。サイバーセキュリティに関する行動規範の制定というのを主張しているのがロシアとか中国。要するにインターネットの「アラブの春」以降、こうしたインターネットを通じての政治的な動きを何とか抑えようというベクトルがかなり働いております。それに対して、日本を含めて西側諸国はそういうインターネット規制的動きは何とか止めようという動きになっています。

これが派手にぶつかるのは実は2012年12月のITUの会合で、国際電気通信規則の改正が行われるWCIT-12というのがドバイで開かれます。ここを中心に国連も巻き込んでインターネットに対して何らかの規制を導入したいというブラジル、ロシア、インド、チャイナ、南アフリカと日本を含める西側諸国の論戦が、派手なインターネットの国際会議の連発につながっているということでございます。これは来年の非常に重要なテーマだと思います。

5. 地デジの国際展開

最後におなじみ、地デジ国際展開。10月、モルディブの国営放送で日本方式の採用が決定されました。無事また1か国増えました。

地デジの国際展開で今一生懸命やっているのが、アンゴラを含めたアフリカです。アフリカは基本的にはずっとヨーロッパ方式でいこうということを決めていました。去年の11月にSADAC南部アフリカ諸国の大臣会合があって、そこでヨーロッパ方式でいいのか？という見直しをしようということに、日本が乗り込んで行って、日本方式にしてほしいと騒いだ結果、原則はヨーロッパ方式だけれども、各国の判断で日本方式を採用してもいい、というのが大臣会合の結論になりました。アフリカは、全て8MHz帯の計画を立てていたもので、各国が日本方式を採用するためには、8MHz帯でISDB-Tを入れて、ヨーロッパ方式と混信が起らないかどうか確認する手続GE06という手続をとれ、という話になっています。アンゴラはこの手続をITUとずっとやっていて、11月15日ITU手続が終了しました。

大臣会合の時に、原則ヨーロッパということになったので、まあ正直負けたかな、と思ったのですが、アンゴラの大臣に呼び止められました。アンゴラとしては日本方式を取りたい、

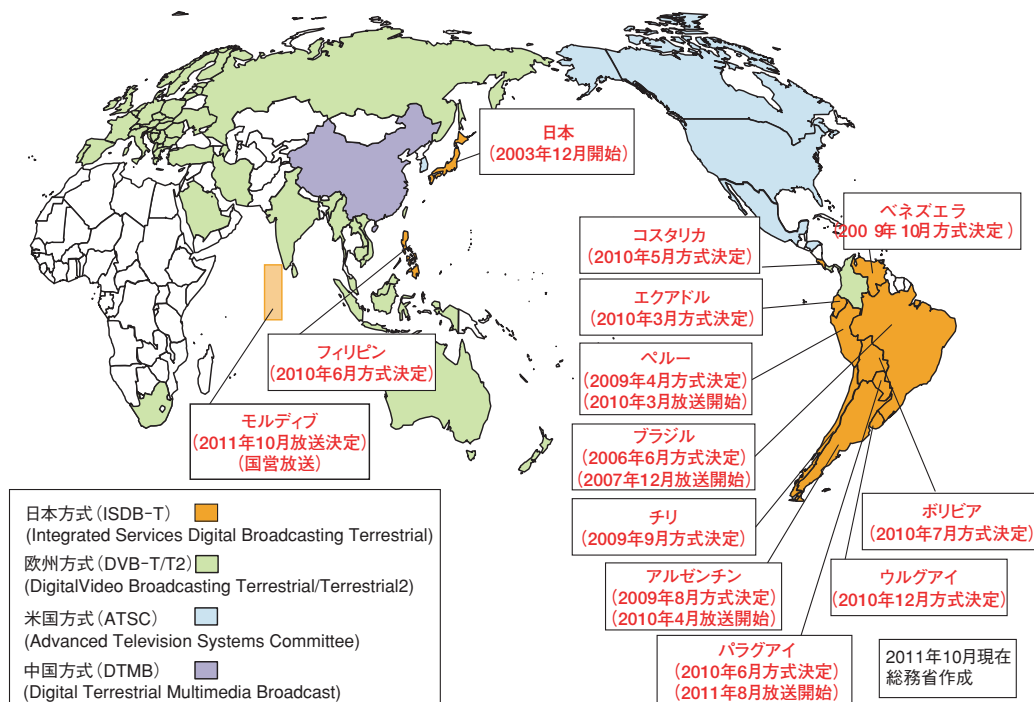


図2. 世界の地上デジタルテレビ方式

と言われました。いろいろ技術的なサポートをしてくれ、という話からこのアンゴラの展開が始まっています。日本もかなりサポートしましたが、そのアンゴラが日本方式の採用に向けて動き、必要な手続として行わなければならないITUの手続を終了しました。アンゴラは一応日本方式を採用できるという前提条件が揃った、ということであります。当初は12月にこれが終わったら決めてくれるという話だったんですけども、担当の副大臣が休みに入るといろいろあり、また止まっちゃって、1月に「はよ決めてくれ」と期待しております。残念ながら現在はモルディブ止まりになっています。

しかし、アンゴラは既にSADACの首脳会議が10月に行われた時も、日本方式を採用する前提で、日本方式のワンセグ端末というのを各国首脳に配って、どうだ、すごいだらう、とやっていますので、これからアフリカでどんどん進んでいくだろうと思っています。

地デジは、南米はほぼ制覇しました。ただ、中米が残っていて、グアテマラ、ニカラグア、ホンデュラスを今やっています。コスタリカの大統領が先々週お見えになり、NHKとかに行っていただきました。日本方式で是非中米のリーダーになって頑張りたいと有り難い話がありました。コスタリカは中米でISDB-T方式の拠点となる、と戦略で決めている国です。したがって、コスタリカが中心となってニカラグアやグアテマラとかを集めて、今一気にISDB-Tにコスタリカグルー

プとして加盟する、という景気のいい話をやっています。そうすると数としてはまたちょっと増えます。

アフリカは残念ながら南アフリカを落としてしまいました。南部アフリカ地域というのは、圧倒的に南アフリカが強いんです。しかし、アンゴラは極めて資源が豊かな国で“いつまでも南アフリカの下にはいないぞ!”“南アフリカに対抗するんだ!”という機運が非常に強い。そのために、自国の産業を興すし、ISDB-Tという旗を立てて、南アフリカを攻めるとそういう景気のいい話でやっています。さらに、ボツワナとかコンゴとかそういう国が様子見をしていますので、アンゴラが決めていただければ、次々とそういう国がドミノ倒し的に入ってくる可能性もある、というふうに思っています。今日の午後、アフリカの大使会議で説明と意見交換をさせていただきました。アフリカには総務省は本当によく行っています。ヨハネスブルグのトランジット何回やった?と室長に聞くと60回、補佐は30回とかです。総務省のミッション、アフリカに何回出ている?というのと、ここ1年で20回出ています。まだ成果は出ていないので2012年は是非出したいと、そういうふうに思っております。駆け足でございますけれども、大体ここ1~2か月の国際の動きを簡単に御紹介をさせていただきます。以上でございます。御清聴ありがとうございました。

(2011年12月15日 第397回ITUクラブ総会より)